

準備委員会企画シンポジウム2

教育経済学研究と教育心理学研究の協働を考える

【企画趣旨】

教育心理学は、「教育」という現象を、教育学的関心に基づく心理学、あるいは心理学的方法による教育学の視点から理解し、実践へと結びつける実証科学である(安藤, 2013)。一方、近年社会的な耳目を集めている教育経済学では、学力など広く「教育」に関わる現象を、経済学的理論から導かれる仮説を元に実証し、その成果を、教育政策の選択や制度設計に生かしつつある。

「教育」を同じく見つめ、同じ事象を検証するのであれば、そこから生み出される知見に大きな差異はないはずである。それにもかかわらず、異なる理論的背景や方法論が用いられるために、両学問分野の生産的な対話が阻まれてしまうことがある。

本シンポジウムでは、子育て方法や子どもの適応的な発達といった、教育心理学が従来十八番としてきたことにまで広がってきた、教育経済学の最新理論や研究動向を紹介していただく。それらに応える形で教育心理学の伝統的な方法論に基づく縦断研究の知見を提示していただく。両学問分野からの話題提供を踏まえ、教育心理学と教育経済学が同じ土俵に上がり、学問的対話を進め協働する可能性やそのための課題について議論する場としたい。